

(平成 26 年 9 月 19 日掲載)

### (1) はじめに

大船渡市は岩手県沿岸南部に位置しています。県内最大の港湾である大船渡港があり、水産業が盛んな都市です。立根地区は、大船渡市中心部の北側に位置し、地区内 1,596 世帯を民生委員・児童委員 9 名（うち主任児童委員 2 名）で担当しています。

東日本大震災では、海岸から 7km ほど離れた内陸部であったことから津波の被害はありませんでしたが、地震による住宅の一部損壊などの被害のほか、通信網や道路が寸断され、食料品やガソリン・灯油等が不足するなど、不便な状況が続きました。

震災直後には、被災した住民が親戚・知人を頼り、その住宅に間借りするなど、最も多い時には 100 世帯余りが当地区に一時避難をされましたが、応急仮設住宅の建設に伴い、一時避難も解消されていきました。

### (2) 現在の様子

当地区内の応急仮設住宅の居住世帯は、最も多い時には約 120 世帯でしたが、自宅の再建などで徐々に退去世帯が増え、本年 6 月末現在では 99 世帯となっています。

高台で津波の心配がないことから、自宅再建の場所として当地区を選ぶ方も多いほか、本年度末には、地区内 2 か所に 113 世帯が入居できる災害復興公営住宅が整備される予定になっており、世帯数の増加が見込まれています。

### (3) 震災発生後、取り組んだ事項

当地区民児協では、今回の震災を教訓に、次の 2 つを重点施策に掲げ、緊急時に備えた仕組みづくりに取り組みました。（※ 別添資料参照）

#### ① アンケート調査の実施

震災発生直後から、通信網や道路の寸断、物流の停止による食料品や燃料の不足等により、高齢者や障がい者など多くの要支援者等が困難な生活を強いられました。

そこで、「震災後何に不便を感じたか・何を支援すれば良かったか」などを被災した住民や要支援者世帯から聞き取り調査し、緊急時の支援活動に活かすこととしました。

#### ② 支え合い緊急連絡カードの作成

震災を教訓に、行政や関係団体等が一体となった緊急時の支援体制の構築に向け、地域の要支援者の情報を整理し、本人の同意を得て名簿を作成しました。

### (4) 全国の委員の皆様へ

全国の民生委員・児童委員、主任児童委員の方がたから、心温まるご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

アンケート調査、支え合い緊急連絡カードの作成は、東日本大震災を契機に、大規模災害時に要支援者を支援する仕組みを作ることを目的に、半年をかけ委員全員で取り組んだものですが、通常時の委員活動にも活かせるものと考えています。

アンケート調査の結果については、被災した住民や高齢者等から聞き取りした「生の声」をもとに作成したものですので、災害発生時等の対策の参考にいただければ幸いです。